

# U D L M

# 3

Vol.356  
March 31st  
2025

私たちと、まちづくり



- p.2-3 デザ研のPJ 紹介
- p.4-9 デザ研メンバーによるPJ 座談会
- p.10 個人PJ 特集
- p.11-12 復興デザインスタジオ特集

△富士吉田プロジェクトでの社会実験の様子

# 都市デザイン研究室のプロジェクト紹介

都市デザイン研究室には、全国各地の地域で実践的に取り組む「プロジェクト (PJ) 活動」があります。今回は、現在取り組まれている4つのPJの概要と2024年度の活動をご紹介します。

## Teganuma

1名 2名 4名  
教員 院生 学部生

### 手賀沼 PJ

千葉県柏市・我孫子市 / 2016年～  
環境や関わり方を捉え直し、  
より開かれた自然体験の場を作る



#### 2024年度の活動

5月 葦船ワークショップ



6月 観察路づくり開始

7月 新生フィールドワーク



10月 ヌマベの楽校ワークショップ①



11月 ヌマベの楽校ワークショップ②

12月 池干し



2月 ヌマベの楽校ワークショップ③

3月 アクションプランブック作成

通年 生きもの観察会 / 観察路整備



## Ueno

2名 7名 8名  
教員 院生 学部生

### 上野 PJ

東京都台東区 / 2017年～  
いけとまちをつなぐ  
まちづくりの構想と実践を行う



#### 2024年度の活動

5月 新入生まちあるき

7月 界限トーク



8月 三角広場ほこみち社会実験



10月 界限トーク / 不忍通り車道利活用実験「池のほとりの本のみち」



2月 界限トーク

3月 三角広場常設実験



通年 不忍いけまち研究会 / ホップPJ / 不忍界限研究



凡例

参加人数

PJ名

活動対象地 / PJ 開始年

活動目標・目的

2024年度の活動

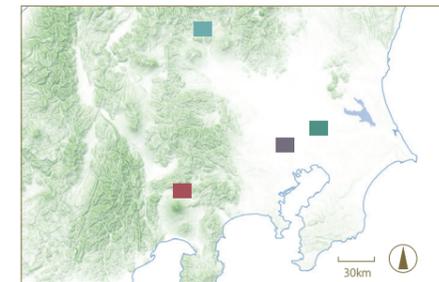
活動対象地 Map

■ 手賀沼 PJ

■ 上野 PJ

■ 富士吉田 PJ

■ みなかみ PJ



## Fujiyoshida

1名 9名 4名  
教員 院生 学部生

### 富士吉田 PJ

山梨県富士吉田市 / 2017年～  
変化する観光の実態を捉え、  
活力として地域に還元する



#### 2024年度の活動

4月 桜まつり調査

5月 新入生まちあるき / えきまち研究会 #1 / えきまち研究会 #2



6月 えきまち研究会 #3

7月 えきまち研究会 #4

8月 えきまち研究会 #5 / 火祭り

9月 えきまち研究会 #6 / 歴史的空間再編コンペ参加

10月 えきまち研究会 #7

11月 社会実験「ヒモトキ・エキマチ」



1月 えきまち研究会 #8

3月 えきまち研究会 #9 (下吉田えきまち近未来ビジョンの提案展)



通年 機織り工場調査



## Minakami

2名 6名 4名  
教員 院生 学部生

### みなかみ PJ

群馬県みなかみ町 / 2021年～  
廃墟再生を通じて  
温泉街を再生する



#### 2024年度の活動

5月 マルシェ作戦会議

6月 新入生まちあるき / マルシェ作戦会議



7月 谷川岳山開き



8月 蔵マルシェ



9月 おいで祭り / 廃墟再生マルシェ



2月 うらるじプロボーザル作成

通年 旧社員寮リノベWS



# デザ研メンバーによる プロジェクト座談会

都市デザイン研究室メンバーの多くが精力的に取り組むプロジェクト(PJ)活動。今回はPJ活動に参加しているM1のメンバーを中心に、PJ活動に入ったきっかけや2024年度の活動の振り返りなど、ざっくばらんに話し合う座談会を実施しました。

## 参加メンバー

## 聞き手

M1\_星葵衣

M1\_木村千咲

M1\_王思予

M2\_東條秀祐

B4\_石井聡太

M1\_松本望実



手賀沼PJ

上野PJ

富士吉田PJ

富士吉田PJ

みなかみPJ

富士吉田PJ

所属PJ

## Q1 プロジェクトに入ったきっかけ

**松本** みなさん、今日はよろしくお願ひします。初めに、プロジェクト(以下PJ)に入るうと思っただきかけをお聞きしたいです。まず星さんからお願いします。

**星** **手賀沼PJ**がきっかけで都市工(都市工学科)に興味を持ったので、大学に入る前から入りたいなと思っていました。実際都市工に入ってから、建物の中だけでは留まらない空間に興味があって、外部空間とか、自然と人間の営みや関わりにも興味がありました。

**松本** 大学に入る前からなぜ**手賀沼PJ**を知っていたんですか？

**星** 推薦入試で入ったんですけど、入試を受ける時に都市工のことを調べていてPJがあることを知って。たまたま**手賀沼PJ**のFacebookを見て、それで興味を持ちました。

**松本** なるほど。SNSでの発信って大事ですね。

**星** 今、全然活用できてないので頑張りたいです(笑)。

**松本** ありがとうございます。次に木村さんお願いします。

**木村** 学部時代は部活しかしてなかったけど、デザ研にはPJがあるし、実際に手を動かすことが好きだから、何かしらのPJには入りたいなと思っていて。せっかくだし、部活もなくなったから何個かやってみよう。上野PJは、卒制(卒業制作)で商店街を対象にしたこともあって、商店街が自分のフィールドの中にあるから、やりたいことに近いかなと思って入りました。あとは、私はずっと東京生まれ東京育ちで、卒制も東京しか扱っていなかったから、一回地方都市にも関わってみたいと思って。**富士吉田PJ**は人数の規模も大きすぎないし、主体的にできそうかなと思って入りました。

**松本** なるほど。では、王さんはどうですか？

**王** 学部の時は自主的なPJは全然なかったので、都市デザイン研究室でのPJに入りたいなと思って。あとは、先輩たちから**富士吉田PJ**と**宇治PJ**をおすすめされて。宇治PJは現在あまり活動をしていないということもあって、**富士吉田PJ**に入りました。富士山は外国人にとってとても有名な観光地でもあったので。

**松本** ありがとうございます。ちなみに、先輩というどなたにおすすめされたんですか？

**王** 全ての留学生の先輩です。

**全員** すごい(笑)。

**東條** たしかに、日本らしいところって言ったらね、富士山は世界遺産なので。

**松本** そうですね。では東條さんはどうですか？

**東條** 自分は観光まちづくりに関することをやりたくて、**みなかみPJ**と迷ってたんですけど、みなかみは行ったことがなかった。PJで嫌なこととか辛いことがあっても、富士山のことは嫌にならないかなと思ったので、**富士吉田PJ**を選びました。

**星** 他のPJは怪しかったんですか(笑)？

**東條** いやいや(笑)。行ったことがないところを選ぶって、ちょっと怖くないですか？どういうまちが分からない中で、PJに入りたっていうのは。

**松本** じゃあ、もともと富士吉田とか富士山が好きではあったんですね？

**石井** 登山しますもんね。

**東條** 富士山は好きだね。登山とか、ウルトラマラソンとかで何回か行ったことがあったし。

**松本** ありがとうございます。では石井くんお願いします。

**石井** 行ったことのないまちのPJをやるのは怖いって言われた後にあれなんですけど(笑)。今はあんまりやってないんですけど、ちょうど**みなかみPJ**に入ったときは、温泉地の巨大ホテル再生のためのプラン作りをやっていて、リノベーションにも興味があったので面白そうだし。それが実際に形になること、建物になることに繋がるっていうのは、すごく面白いと思って、PJに参加したっていう感じですね。

## Q2 2024年度の活動でやりがいを感じたこと

**松本** みなさんがPJに入ったきっかけをお聞きできたので、次に2024年度の1年間で一番やりがいがあったことをお聞きしたいです。

**星** **手賀沼PJ**では、大きな行事を成し遂げた、みたいな感じではないんですけど。学部の時に活動している中で、フィッシングセンターという敷地の中に活動がこもっちゃっているなというのをずっと思っていて。堤防を越えたヌマガキでもフィールド作りをしたいと思っていました。今年度は地域の方と一緒にその認識をした後で、実際に観察路づくりを始めたりとか、専門家の方にも来てもらって改めて環境を評価し直したりする機会ができて、それがすごく大きな一歩だったんじゃないかなと思っています。今年度は観察路を作ったりするので精一杯だったんですけど、これを機にというか、この一歩を元にして、来年度はもうちょっと具体的な自然体験のフィールド作りに入っていただけたらいいんじゃないかなと思っています。

**松本** ありがとうございます。観察路づくりはいつからやっていたんですか？

**星** 6-7月くらいに始めて、それから現地に行く度にちょっとずつやっていました。第3日曜日の観察会が終わった後と第4日曜日のヌマガキ作業日に、私たち学生と地元の方と一緒にやっていて、子どもたちもやりたい人いたらどうぞ、という形で募集していました。刈っても刈っても草が生えてくるので、ひたすら肉体労働でした。夏が暑くてしんどかったです。

**松本** それは大変そうですね...！では、木村さんお願いします。

**木村** **富士吉田PJ**はえきまち研究会がずっとあったから、これを特に頑張ったというよりは、継続的に頑張っていたという感じで。もちろん社会実験では達成感もありました。一番頑張っていたことかというと、**上野PJ**の8月頭にあった三角広場の社会実験「JAZZ&BEER」です。三角広場の社会実験は、2023年秋と2024年春にやっていて、2024夏で3回目でした。その時はPJに入ってから初めてちゃんと関わった社会実験で。全然分からないこともあったけど、カウンターの設計を任せてもらって、色々相談しつつ頑張りました。その結果、まちの人が「とても良い空間だったよ」とか、「ああいう使い方がいいよね」みたいに言ってくれて。しかも本当にまちの一角が変わった感じがして、やりがいがありました。

**松本** そのカウンターの設計は、一から自分でやったんですか？

**木村** 最初にたたきを持って行って、ある程度ミーティングの時にみんなで話してはいたけど、設計は自分が考えて、それをたいてもらって...みたいな感じでした。



三角広場ほこみち社会実験(上野PJ)



生きもの観察会(手賀沼PJ)

**松本** それが自分で一からできるのはすごいですね。では王さんは、昨年の秋から**富士吉田PJ**に入って、短期間ではありませんがどうでしたか？

**王** PJではみんながとても頑張っていて、私は遊びみたいな感じでした。

**全員** そんなことはない(笑)。

**王** でも、今年1月のえきまち研究会で、住民の方たちが話していることがとても良いと思いました。アイデアに対してのコメントをやり取りするのがとても楽しかったです。正直東京にいるときは、日本人たちは私を「外国人」や「観光客」とみて話しているのを感じていて。でも**富士吉田の住民の方は、私も住民の一人として話してくれる感じがして、とても良かったです。**

**松本** 研究会でのワークショップで直接参加の方とお話しできたんですね。それはとても良い機会になったと思います。では、同じく**富士吉田PJ**の東條さんお願いします。

**東條** 今年度はえきまち研究会で地域の住民とか事業者を呼んでやったと思うんですけど、主催する中でそれぞれの立場の違いとか、そういったものを結構肌で感じることができて。実務に近い学びができたのが良い経験になったのかなと思います。

**松本** なるほど、ありがとうございます。では石井くんお願いします。

**石井** 今年は実はそんなにみなかみPJに参加できてないんですけど。毎年やることではありますが、廃墟再生マルシェですね。2日間かけて現地の色々なところを再生という綺麗な感じで、そこに色々な人が来てもらって。今年は延べ4000人ぐらい来てもらえました。

**全員** すごい...！！一大イベントだ。

**石井** そうなんです。もう毎年一大イベントで。今年に関しては、本当に先輩方の手伝いをただけみたいな感じになっちゃったんですけど。毎年、「今年は良かったね」、「去年よりもっと良かったね」と言われるのはすごくやりがいがあると感じますし、同時にその期待も感じるというか、一番上の代になって、今年度も頑張らなきゃなって思っているところですね。

## Q3 プロジェクト内での自分自身の役回りについて

**松本** それぞれのPJでは先輩や後輩がいる中で活動してきたと思うんですけど、人によってPJ内での立ち位置や役回りが違うなと思っていて。その中で感じたこととか、大変だったこととかはありましたか？

**星** **手賀沼PJ**では、昨年度まで先輩しかいなかったのが一気にいなくなったので大変でしたね。学部生が4人も入ってくれたので大変ありがたかったですが、やっぱりみんな都市工に入りたてのぼやぼやの人たちで、最初はうまく議論ができなかったです。自分がどのくらい頼っていいのかが分からなかったり、どのくらいやる気があるのかも分からなかったの。先輩との関わり方は、今もそんなに上手な訳じゃないけど結構困ったところではあったし、やっぱり相談相手がいな。先生にしか相談できないみたいな状況は結構しんどかったなと思います。今は結構話し合いをちゃんとできてるという感じがあるので、それは良かったなと思いますが、最初は大変でした。

**松本** 1年をかけて学部生も議論に参加してくれるようになったというか。

**星** そうですね。結構積極的に意見を出してくれる人も出てきたので、それは嬉しいです。

**松本** なるほど、それは良かったです。では木村さんお願いします。所属している2つのプロジェクトで、それぞれ立ち位置は違うと思うんですけど。

**木村** **上野PJ**は先輩も後輩もたくさんいて、大所帯の中で「今年入りたて」という立ち位置でした。「入りたて」の中では一番上の立ち位置、学年というか、先輩がいるからベースは整っているけど、その中で自分がどう関わりを出せるんだろう？みたいなことは、最初は難しく、議論も先輩が引っ張って行く中で学部生よりはちゃんとコミットしたいなと思いつつ、そこが最初は難しいなと思っていて。三角広場での社会実験では、一つ役割を与えてもらったから、責任を持って頑張れました。ただ、池のほとりの本のみち（不忍通り車道利活用実験）の方は、他のPJが忙しかった時期とも重なったことがあって。あまり具体的に関わらないというか、一つのタスクをこなしていくみたいな感じで、メインに関わる人に任せきりにしちゃったなというところがあって。だからそれを踏まえて、来年度は上の学年も少ないし、しっかり後輩を巻き込んでやりたいなって同期とも最初から話して。その関係性を築くっていう部分を、大切にしようと思っています。

**松本** ありがとうございます。ちなみに**富士吉田PJ**では？



廃墟再生マルシェ (みなかみPJ)



えきまち研究会 (富士吉田PJ)

**木村** **富士吉田PJ**は、先輩の代でメインで関わっているメンバーは多くはなくて、今年後半の方はM2の小林さん一人で。だからこそ、最後は小林さんがまとめてくれるというのに頼って、のびのびやらせてもらったなというのは思っていて。やりたいことが主体的にできつつ、でも先輩がいるっていう安心感もありつつ、みたいな。すごくやりやすい環境でやらせてもらえたなというのは思っています。ありがとうございますという気持ちです(笑)。

**松本** そうでしたね...！では王さんは、留学生としての立ち位置というか、PJで活動していく中で、何か思ったことはありましたか？もっとこうやって関わっていきたくった、とか。

**王** みんながとても頑張っていて、私も今まで楽しかったです。

**松本** 王さんはデザインが得意だと思うのですが、自分のスキルを活かしてPJで関わってみたいことなどはありますか？

**王** みんなと一緒にマップなどのデザインはやりたいです。住民の方にとって安全で良い空間をデザインすることもやってみたいです。

**松本** ありがとうございます。では東條さんお願いします。

**東條** 僕は秋学期入学ですが、**富士吉田PJ**はあまり学年を意識せずに動いていたと思うので、すごく困ってたわけじゃないです。総括の方は割と小林さんに任せてしまった感じはあって。彼女の強みでもあると思いますが。

**松本** 逆に自分にしかできなかったこととかはありますか？

**東條** 去年までは、社会「実験」と言いつつ、調査としてあまり検証してないことは課題だったと思います。土木の出身で、定量的な分析を重じるような考え方は多分身につけているので、その辺はしっかり自分の経験を活かしてやりたいなという意識は、今年ありました。

**松本** 社会実験での定量的な分析は、PJメンバーとしてもとてもありがたかったです。では石井くんお願いします。

**石井** 今年は、**みなかみPJ**では一番上の先輩が4名いらっしゃって。その中でも、マルシェと旧社員寮のリノベーションの2つのチームに分かれて動いていて。僕はそのうちリノベーションの方に関わるが多かったんですけど。そのチームをまとめていた先輩もすごい頻度でみなかみに行っていて。なんていうか、しっかり地元の人に愛されていて、「そんなんじゃダメだよ」とか、「こうやるんだよ」とか、「この道具使いな」とか。現地に行ったら、何人か都合がついたら来てくれる人がいたりして。それを見ていると、やっぱり地元の人に愛されるって、すごく大事なんだなというのは感じました。その中で役回りではないかもしれないですけど、やっぱりそういうふうにして築かれてきたものを大事にしなきゃなと思っています。そんなしっかりした先輩方がいる中で、自由に手伝わせてもらったなという感じはします。

## Q4 2024年度の活動で大変だったこと

**松本** 先ほどの質問と被る部分もありますが、プロジェクトを掛け持ちしていたり、授業や研究もある中で、大変だったことなどはありますか？

**星** 常に何かに追われていた感じはしていました。**手賀沼PJ**は、自分が動かないと進まないから、しっかりやらなきゃいけないという点では大変でした。でも、全部自分がやりたくてやっていることなので、PJも授業のスタジオに関しても充実はしていました。どれも良い経験だったなと思っています。が、研究が全く進んでいないという...。犠牲にしたものは大きかったので、これから頑張りたいと思います。

**松本** 研究に関しては、M1はみんなそうかもしれないですね...。私自身も、PJでの忙しさを理由に疎かになっていました。では木村さんお願いします。

**木村** 10月は、あらゆる社会実験とかイベントとかが被っていて。そのための準備は、基本的に自分の中で優先順位を決めてできるんだけど、当日の実施日が被っちゃうと体は一つしかないからどうしようもなく、心苦しかったです。**上野PJ**の社会実験と**宇治PJ**のワークショップの日程が被っていたときは、結局午後まで上野にいて、夜幹線に乗って宇治に行きました。やりたくてやってるから忙しいのはいいんだけど、つい自分の生活を犠牲にしてしまうので、今年度は不健康すぎたなというのがあって。部活をやっていた時代は、健康が大事だからちゃんと寝ていて、飲みもあまりしてなかったけど、部活を引退すると睡眠をいくらでも削ってしまうことがあって。急に今年不健康な生活になったから、意識しないと健康は保てないんだなというのは実感しました。



社会実験「ヒモトキ・エキマチ」(富士吉田PJ)



旧社員寮リノベWS (みなかみPJ)



ヌマベの楽校WS (手賀沼PJ)



不忍通り車道利活用実験 (上野PJ)

**松本** それはそうですね。私も気をつけたいです...。王さんは昨年10月に日本に来て、すぐに授業が始まって、PJも入って...とすごく忙しかったと思うんですけど、その中で大変だったことなどはありますか？

**王** 言葉(日本語)が一番大変なことでした。それ以外は、そこまで忙しくなかったと思います。授業のスタジオは2ヶ月だけだったので。日本語は、時々全然理解できないことがあって。言葉のスイッチ(切り替え)が全然できないときがあります。

**松本** 慣れない環境で日本語を使うのは本当に大変だと思いますし、とても上手ですごいです。東條さんはどうでしょうか？

**東條** 今年度は11月が忙しくて。**富士吉田PJ**の社会実験があったのと、他に学会発表と復興デザインコンペなどが被っていて忙しかった記憶があります。忙しくて提出がギリギリになってしまったり、間に合わないことが多々ありましたが、社会人になったら許されないと思うので、学生のうちにしっかりマネジメントする能力を身につけたいなとは思いました。

**松本** 私も来年度は頑張ります...。では石井くんお願いします。

**石井** 忙しい時期はあまりなかったですね。強いて言えば9月はちょっと忙しかったかな、ぐらいですかね。遊びと**みなかみPJ**と、卒業制作の現地調査に行ったりしていたので。得た学びは...もう少し頑張りたいなという感じですかね(笑)。

### Q5 来年度への意気込み

**松本** 最後に、来年度（2025年度）に向けて、PJ活動においての意気込みをお願いします。

**星** **手賀沼PJ**では今年3月にアクションプランブックも作って、これからどうしていきたいのかというところを意思決定したところなので、来年はその実践を地域の方々と一緒にしながら、私たちがフィールドデザインにどう関わっていけるかをちゃんと考えたいなと思います。秋過ぎくらいに引退になっちゃうので、最後に自然体験フィールドづくりを少しでも進めて形に残せば良いなと思っています。

**松本** 具体的にイメージをしていることはありますか？

**星** 社会実験は地元の団体に主催を移しているの、私たちが主催することは特にはないですが、「ヌマベの楽校」みたいなものを作りたいという話をずっとしているので、今はただ草を刈ってという、形を作っただけみたいな状態なので、沼辺に安全に降りて行けるようにしようとか、活動紹介の看板を作ろうとか、アクションプランで「やりたいね」と話してたもののうち、ハード整備的な部分で私たちがデザインできることはやってみたいです。

**松本** アクションプランブック作り、お疲れ様でした...！では木村さんお願いします。

**木村** 今年はどちらのPJも元々やることが決まった時点で入っていて、目の前にあることをやるみたいな感じだったけど。来年度は、**富士吉田PJ**では未確定なことも多いので自分たちで何をやるかを作っただけじゃいけななし。**上野PJ**でも一番上の学年になったことで、代替わりのときに何をやりたかを話し合っていて。去年は「学ぶ」というやや受け身なスタンスだったけど、今年は自分がそれぞれの地域で何をしたいかをしっかり考えて、それに向けてできることをやっていきたいです。

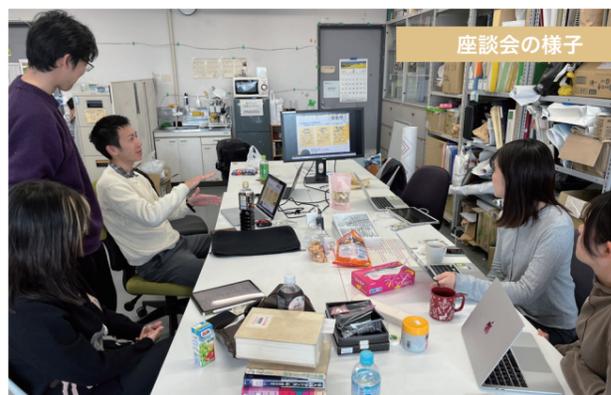
**松本** ありがとうございます。では、王さんお願いします。

**王** まずは、PJにもっと参加したいです。あとは、自分のキャリアにとってどのような職業が一番良いかを知るために、色々なアルバイトとかインターンも試したいです。

**東條** PJで色々な主体と関わる中で、自分が将来的にどういった立場で仕事に携わりたいかを考えられるのがPJの魅力だと思います。



座談会の様子



座談会の様子

**松本** そうですね。実際に地元の人と話すすごく良い経験になるというか、将来どうやって自分がまちに関わるのかというのを考える良いきっかけになると私も思いました。では東條さんお願いします。

**東條** 自分は**富士吉田PJ**自体は3月で引退するのですが、PJでの経験を買われて首都圏外縁の自治体での地域おこし協力隊に採用されました。仕事してやるとなると、学生以上に成果を求められると思うんですけど、これまでPJで学んできたことを活かして、1年間ですけど少しでも地域に貢献できたらと思います。

**松本** PJでの経験を買われてという、採用される時ににどんなことを聞かれたんですか？

**東條** 地域の人とどう関わるかとか、大学院生として採用されているので、アカデミックな客観的な視点で分析するとか、そういった経験が買われたのだと思います。PJでの活動も、社会人の実務経験と同じように扱ってくれたので、皆さん自信を持ってというか（笑）。結構すごいことをやっていると思います。

**松本** ありがとうございます。では最後に石井くんお願いします。

**石井** 今までずっとコンセプトや社会実験など、ずっと形で残ってるものじゃないところをメインでやっていたんですけど。来年度は社員寮のリノベーションで、実際にそこにある建物の形を変えて、僕らがいない時でも使ってもらえるような施設として開業できたらなっていうのが一つ大きな目標としてあって、実際に机の上で考えて現地でフィードバックをもらって、みたいところから一歩進んで、実際に形に残すという、一つPJの成果にもなるものができたらな、というのが**みなかみPJ**全体の目標です。個人的な意気込みとしては、今日も何回か言いましたが、現地の人たちの信頼感とか期待感みたいなものをちゃんと引き継いでいけたらなと思っています。先輩方が育ててきてくれた下さった、東大チームに対する信頼感ですね。そういったものを引き継げるよう、しっかり頑張っていきたいなと思います。

**松本** 確かに、短期間だけやって帰る、というスタンスにならないのは大事ですし、学生として関わる上での難しさは私もPJ活動を通して感じました。ありがとうございます。では皆さん、1時間弱ありがとうございました。以上で座談会を終わりたいと思います。来年度も引き続き頑張りますよ！

### COLUMN PJ対象地での思い出

それぞれの場所でPJ活動を頑張っている研究室メンバーに、対象地で体験した思い出深い出来事を聞きました。



#### # 吉田の火祭り

富士吉田

PJメンバーみんなで火祭りに行きました。想像以上の熱さでびっくりしましたが、たくさんの屋台を回ったり、火祭りの裏話を聞けたりと満喫できました！普段関わる機会が少ない慶應大学のメンバーなど、色んな人が学生拠点「ココロコ」に集まっていたのも賑やかで楽しかったです！（M1\_木村）

#### イベント



#### # 富士登山競走出走

富士吉田

以前から出場したかった富士登山競走出走に出走しました。一年目は五合目コースしか出れないので余裕だと思っていましたが、暑さと登りのせいで結果は散々でした。それでも、市役所の方やPJメンバーの応援の中で走れたこと、凄く嬉しかったです。3年以内に山頂コースにも挑戦します！（M2\_東條）



#### # おいで祭り

みなかみ

「おいで、おいで」の掛け声で温泉街を練り歩くおいで祭り。一年で一番温泉街が活気付き、都会に出てしまった人も帰ってくるお祭りに、連携先の会社の方とチームで参加しました。法被を着る側としてお祭りに参加するのは初めてで、しばらくまつり囃子が耳から離れませんでした。（B4\_石井）

## Event



#### グルメ

## Gourmet

#### # 「numa cafe」パフェデビュー

手賀沼

旬の果物や野菜を使った名物パフェ。現地での活動は毎回忙しく、食べる機会がないまま2年間過ぎてしまったのですが、ようやくブルーベリーの季節にパフェデビューしました！ブルーベリーたっぷり、爽やかな紫蘇ゼリーとの相性もばっちりです。来年度も食べたい...（M1\_星）



#### # 喫茶店「もんぶらん」のパフェ

富士吉田

最近放送されていたドラマ「ホットスポット」のロケ地として、よく登場する喫茶店です。11月に訪れたときはすぐに入れましたが、現在は4時間待ちなんてこともあるそうです...！放送前に訪問しておいて良かったです。マロンパフェがとても美味しかったです。（M1\_松本）

#### 景色

## # 予想外の大雪

富士吉田

土曜日は異常な暑さで、まさか翌日天気が一変するとは思わなかった。日曜日には突然大雪が降り、わずか2時間で一面が真っ白になった。暖房のそばで窓の外を眺めながら幸せを感じたが、外に出て大雪を楽しみたかったものの、厚着をしておらず、寒すぎて意識が飛びそうになった。（M1\_王）



## Scenery

# 個人プロジェクト特集

デザ研のプロジェクトは研究室のプロジェクトに留まらない。各メンバーが自主的にプロジェクトを興したり、会社に参画したり、コンペに挑戦したりと、精力的に活動している。今回は、こうした個人プロジェクトを6つ紹介する。

## 白川郷ナイトマルシェ M2 山田

### 出身地と連携した個人PJ @岐阜県白川村



地元で幼馴染と「何かしよう」という思いつきから動き出した企画。本当にゼロから考えるという経験は初めてで、準備から当日まで混乱に混乱を重ねたが、村民・観光客、大人・小中学生とたくさんの方が来てくれた光景には息をのんだ。今年も開催予定。

## ASIBA 会社 B4 高野

### @都内中心



クリエイティブ領域（建築都市・デザイン・アート）の若手による社会実装を増やすため、インキュベーション、伴走支援、領域横断ワークショップ、アワードプログラムなどを行う会社です。私は都内自治体と連携し、長期視点で地域課題を発見し、プロジェクト創出や実証実験につなげる仕事をしています。

## スポーツまちづくりコンペ M2 東條

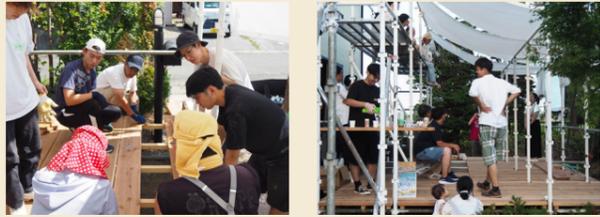
### コンペ @長野県松本市



デザインは正直苦手なので松本市を対象地とし、アイデアコンペに参加。まず、走る行為の特性に着目し、各地で推進されている「歩きたくなるまち」の概念を「走りたくなるまち」へと発展。その概念に基づき、空き店舗を活かしたランニング拠点や、食文化・景観を味わえるマラソンコースを提案しました！

## 浪江「あの日」の家 改修PJ M1 星

### 他研究室の学生が立ち上げた自主的な学生PJ @福島県浪江町



3.11以降凍結保存された家をアーカイブし、災害がひとつの家族に与えた影響と変化を体感できる空間を整備することなどを目的に、空き家の改修設計を行っている。一部施工は町民の方々と共に進め、今後の活用についてもワークショップ等実施しながら検討を進めている。

## 造園・都市計画系コンペ M2 水野

### コンペ @コンペにより様々



設計力、協調力を磨くため、また競争性に惹かれて参加しました。特に敷地の文脈の読解に力を入れ、それを如何に設計に反映させるかを意識しました。残り時間を考慮し、分析と設計のバランスを取りながら具体的な設計をし、それを簡潔に伝える戦略を立てるのも醍醐味だと思います！

## 建築まちづくりコンクール B4 岡田

### コンペ @足立区千住西地区



オムニバス演習で扱った北千住の無接道家屋群の防災計画をブラッシュアップしてコンペに提出した。それぞれの家屋へとアクセスするための、住民同士の共有の土間のような法定外道路に着目し、それを地域コミュニティの強化と都市の防災性の向上に資するウラニワへと発展させる計画とした。

# 復興デザインスタジオ特集

毎年多くのM1生が取り組む復興デザインスタジオ。災害リスクの高い地域や実際に被災した地域に出向き、災害対策や復興計画を立案する演習である。都市工・社会基盤・建築の3専攻から履修者を募集するが、本年度は愛媛県南予地域で南海トラフ地震の事前復興を考える演習を、デザ研か

ら5名が履修し、2名がTAとして携わった。ここでは今月号の担当松本・副担当東條が携わった津島岩松班の活動を中心に、デザ研メンバーが携わった対象地の様子を紹介する。スタジオ演習に留まらず、コンペへの提出や、現地の住民や市役所との実践活動を伴った、1年かけての大掛かりな演習となった。



※御荘地区は演習対象地だが、研究室内の履修者がいないため割愛する。

## 津島岩松班 履修：東條・松本 TA：山田

### 作品

地域の歴史を伝え、観光客を惹きつける古い町は、災害による「孤立」のリスクを表裏一体で抱えている。そこで、昨冬に重建に選定された宇和島市津島岩松を対象に、地域内外の「連携」を強める拠点施設や国・自治体が行うべき制度を提案した。



宇和島市遊子の漁村と段畑の景観は、伝統的な生業と地域で連帯する風土が生み出してきた。過疎化が進み、災害後には浦々や半島全体が孤立する中で、風土を活かし速やかな生業の復興に繋げるための仕組みを提案した。

### 実践活動

遊子小学校の授業と連携した防災デイキャンプを実施。災害後の生活を体験し、防災の備えや事前復興の取組について、地域の方々と考える機会となった。



### 現地視察

重要伝統的建造物群保存地区に選定されている地区内を巡り、学芸員による建築の案内を受けた他、住民へのヒアリング、防災関連施設の見学を行った。



### 実践活動



### 作品

## 遊子班 履修：星



# 宇和島班

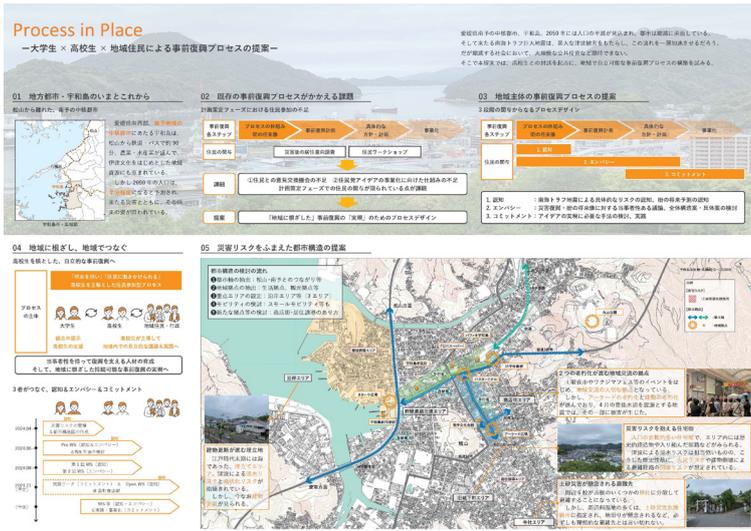
履修：木村 TA：洲崎

作品

宇和島市は人口減少と都市の縮小に直面し、南海トラフ巨大地震の津波被害がその流れを加速させる。縮減社会において防災のための大規模な公共投資が難しい中、高校生との対話を通じ、地域が自立できる事前復興プロセスの構築を試みた。

実践活動

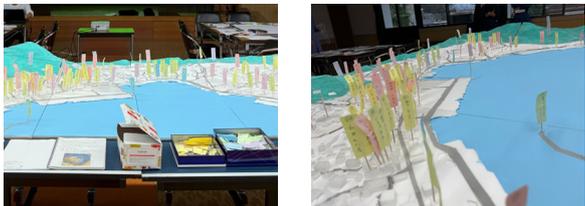
宇和島東高校の生徒たちと一緒に、これまで遠隔で議論を重ねてきた事前復興や商店街の将来像について、商店街でパネル展示などを通じて発信した。



愛媛県愛南町福浦地区は、南海トラフ巨大地震で津波被害の危険がある漁村地域である。少ない人口でも豊かな生活が実現されるように、発災前後のタイムラインを設定し、日常に寄り添う事前復興プランを提示した。

実践活動

地域全体模型を作成し、福浦に設置。住民の方に、福浦の場所についての記憶と思い出を旗に書いてもらい、アーカイブを行ってもらっている。(現在も継続中)



作品



# 福浦班

履修：和栗

## COLUMN

### WEB MAGAZINE

えきまち近未来ビジョンの提案展



# 富士吉田プロジェクト

様々な年齢層、異なる職業の方々が見学しながら、今後の発展について意見交換を行い、貴重なフィードバックや新たな気づきを得ることができました。(M1 王)

続きはコチラ >>>  
<https://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>



春追いコン開催!



# 研究室イベント

3/24に追いコンを行いました!写真はプレゼントで作ったデザ研Tシャツです。今年度は修士・博士、そして青木先生と見送る人たちが多く、寂しくなりました...またいつでも戻ってきてください!(M1 木村)

### MACHI BINGO

マガジン片手に、まちを歩こう



### 愛媛県 宇和島市

復興デザインスタジオでお世話になった愛媛県宇和島市の3つの対象地から3枚ずつ写真をチョイス。重伝建地区に選定されている津波岩松・重要文化的景観に選定されている遊子・現存天守の城下町宇和島を、皆さんぜひ訪れてみてください。(M2 東條)

3月号担当  
M1 松本望実



デザ研に所属してから1年が経ちました。人生の中で最も濃い1年だったと言っても過言ではないほど忙しく、充実した日々だったと思います。今年度の振り返りとして、普段は中々一堂に会さない(?)研究室メンバーとの座談会も企画できて良かったです。アウトプットを続けた1年だったとも思うので、今後は適度にインプットもしつつ、PJに取り組んでいきたいです。